

平成 26 年度個別作業実施報告について

霧ヶ峰自然環境保全協議会 霧ヶ峰草原再生協議会

1 霧ヶ峰自然保全再生実施計画及び個別作業計画策定の経緯

霧ヶ峰に関わる団体の代表者が一堂に会し、霧ヶ峰の保護と利用のあり方について総合的に協議・検討し、目指すべき霧ヶ峰の姿を描き実現するため、平成 19 年 11 月 16 日に設立した「霧ヶ峰自然環境保全協議会」（通称 霧ヶ峰みらい協議会。以下「協議会」という。）では、平成 20 年度、第 7 回協議会（平成 21 年 2 月 18 日）において、『霧ヶ峰の今とみらい～霧ヶ峰再生のための基本計画～』をとりまとめました。

この基本計画は「施設整備基本構想」「自然保全再生計画」「エコツーリズムモデル構築計画」を 3 本の柱として構成され、そのうち「自然保全再生計画」では次の 8 つの事項について提案されました。

- ① 霧ヶ峰の区画割～草原・湿原・樹叢と森林の調和
- ② 草原・樹叢の保全再生方法
- ③ 湿原環境対策
- ④ 牧草地の在来植生復元
- ⑤ 森林の管理方法
- ⑥ 野生鳥獣被害対策
- ⑦ 外来植物への対応
- ⑧ 公園管理団体の設立

協議会では、この 8 つの事項の内、③と⑧を除いた 6 つの事項について具体的な計画を策定するため、平成 22 年度から平成 24 年度前半にかけて霧ヶ峰では約 70 年ぶりと言われる大規模な植物相調査を実施し、科学的根拠に基づく目標植生を示した報告書を取りまとめました。協議会の下部組織である「自然再生部会」では調査結果を受け、平成 24 年度後半から平成 25 年度前半の約 1 年間に「霧ヶ峰自然保全再生実施計画（以下「実施計画」という。）」案を作成し、広く一般への意見募集を経て協議会に提案し、平成 25 年 10 月に計画が承認されました。

同時に実施計画に基づく個別の作業の詳細を定めた個別作業計画も承認され、自然保全再生のための作業を平成 26 年度から実施することになりました。

2 霧ヶ峰自然保全再生実施計画の概要

霧ヶ峰の草原は、周辺集落の人々が霧ヶ峰を採草地として利用することにより維持されてきた半自然草原です。霧ヶ峰の草原が広がったのは、平安時代以降と見られますが、特に江戸時代には周辺集落の農耕用牛馬の飼料や田畑の肥料として草の需要が高まり、全山にわたる本格的な採草が行われるようになりました。この入会地としての利用に伴い霧ヶ峰の草原が完成されたと考えられています。

しかし、農業の機械化や化学肥料の普及に伴って草の需要が減少し、昭和 30 年代の半ばを境に本格的採草が行われなくなりました。その後約 50 年が経過した結果、草原に樹木が生えて森林化が進行したため、草原景観の消失、草原植物の減少、希少植物の消失など植生の変化が進んでいる状況があります。また、近年人や車の入込みが原因と思われる外来植物の繁茂が多く、希少種を含む在来植物や在来生態系へ影響を及ぼしており、昭和 30 年代の植生が失われつつあります。

実施計画では、昭和 30 年代の植生を参考に草原を保全再生し、自然が豊かな草原景観を後世に継承するため、基本計画で示した区画割ごとに学術、生物多様性、景観、歴史、観光、実効性等の視点か

ら総合的に勘案して目標植生を定め、それを維持、保全、管理、造成するためにそれぞれの目標植生について、雑木処理・刈取り・火入れによる手法の選択、組合せ、手順などを定めることとしています。また、外来植物対策として、抜き取り・刈取りなど種ごとの効果的な駆除方法の選択や侵入・定着の予防策を定めることとしています。

これらの保全再生事業は、当面モデル地区を設定し、地区ごとの個別作業計画を作成して作業を実施し、モニタリング調査を行いながら結果をフィードバックすることにより知見やノウハウを集積してよりよい手法を他地区に拡大しようとするものです。

また、保全再生事業を継続的に行うための安定した資金確保の検討、ボランティア制度の創設、草原の里親制度の創設、参加体験型エコツアーとの連携などの仕組みづくりを提案しており、将来的には自然公園法に基づく公園管理団体の設立の検討など推進体制を整備することとしています。

3 個別作業計画及び個別作業の概要

個別作業計画は、実施計画に基づき雑木処理、草の刈り取り、火入れといった手法を選択、組み合わせ、また外来植物対策を含めて、計画的、継続的に保全再生の取り組みを行うため、5か年程度の具体的な全体作業計画を霧ヶ峰自然環境保全協議会が地権者等に提案し、この計画を基礎に地権者等と関係行政機関が協働し地権者毎に定め作成した計画です。平成26年度に実施した計画では、外来植物の駆除4地区、優占種刈取り（伐採）3地区の計7地区をモデル地区とし、10回の作業を実施しました。

また、作業の実施主体として「霧ヶ峰草原再生協議会」を組織し、環境省の事業である「生物多様性保全推進支援事業」の採択を受け、環境省と長野県の支援により作業の経費を得て実施しました。

実施箇所については、別添位置図のとおりです。

(1) 外来植物の駆除作業

【個別作業 車山高原セイヨウタンポポ駆除】

車山は霧ヶ峰高原の主峰で標高1,925m、山頂は諏訪市と茅野市の行政界になります。

古くからスキー場事業が行われ、夏季においても小学生の移動教室、高原ハイク等でリフトが利用され、年間を通したレジャースポットとなっており、観光客の入込みが多い地域です。

一般に外来植物は、人や車が運んできた種子により侵入したと考えられますが、車山のセイヨウタンポポも観光施設の周辺に多く繁茂している状況でした。



セイヨウタンポポ(キク科タンポポ属要注意外来生物)

車山ではわずかな個体数の在来種：ニホンタンポポ

駆除実施日時 平成26年6月2日(月) 午前9時から11時30分

実施場所 車山高原スキー場ゲレンデ及びその周辺

参加人数 28名

20名の募集でしたが、募集定員を上回る応募があり、在来植生への影響に配慮して募集期間中に締め

切らせていただきました。当日は快晴で日差しも強く、暑い中での作業になりました。



車山ビジターセンター2階のレストランホールをお借りして開会式を行いました。
ビジターセンター職員に講師をお願いして、セイヨウタンポポの駆除について学習しました。



車山ビジターセンターではセイヨウタンポポ駆除ツアーを実施しています



現地で実物を見ながら、駆除の学習をしました



あまり1箇所には集まらないように駆除開始です



セイヨウタンポポは根が深く、道具を使っても全部は取りきれません
参加者の皆様には、なるべく根まで駆除するよう1本1本丁寧に駆除していただきました
外来種の駆除は本当に根気のいる作業です



駆除する前はセイヨウタンポポの花壇でした



駆除後の状況です



茅野市運搬車に積み込み諏訪南清掃センターで焼却処分しました

今回の駆除量は 28 人×2 時間余りの作業で、約 50kg でした。
 セイヨウタンポポは根まで駆除するのに相当な労力を要します。
 セイヨウタンポポが生育しないよう、まずは種子生産をさせない工夫、持ち込ませない工夫をしていく必要があります、今後の課題です。
 今回の駆除は、車山全体から見ればわずかな量ですが、密度が高い箇所を中心に駆除したので、効果に期待しています。

作業は、車山高原観光協会・茅野市北大塩財産区・霧ヶ峰パークボランティア連絡会等の団体、他多くのボランティアの皆様に参加いただき実施することができました。本当にありがとうございました。

来年度は、今年度の経験を活かし、より効果的な駆除を計画したいと思いますので、来年度もよろしくお願いいたします。

【個別作業 池のくるみハルザキヤマガラシ駆除】

霧ヶ峰インターチェンジから市道を車で踊場湿原に向かうと途中左手に建物があり、建物から南北にかつて牧草地であった草原が広がっています。この草原にハルザキヤマガラシが繁茂しています。

侵入経路としては、牧場の家畜の飼料に種が混ざっていたのではないかと推測されていますが、人や車が持ち込んだものもあると思われ、現在では霧ヶ峰全体の車道沿い等に繁茂が見られます。

車道沿いについては例年「霧ヶ峰高原を美しくする会」主催で駆除が実施されており、今年度は当協議会の作業と同日に同会会員により実施されました。

駆除実施日時 平成 26 年 6 月 10 日(火) 午前 9 時から 11 時 30 分

実施場所 池のくるみ (小和田牧野農業協同組合「お花畑」事業駐車場周辺から旧サフォーク小屋下の草原まで)

参加人数 42 名



ハルザキヤマガラシ(アブラナ科ヤマガラシ属
要注意外来生物)



一見わかりませんが、繁茂しています

午前9時、小和田牧野農業協同組合で実施しているお花畑事業地奥の駐車場で開会式を開催しました。開会式では、霧ヶ峰自然環境保全協議会座長 土田信州大学名誉教授からハルザキヤマガラシの特徴や駆除方法の説明があり、幼個体のロゼット型は抜取り、その他は地際からの刈取りが有効である等、効果的な駆除方法の学習をしました。

駆除作業は、駐車場から市道上までの班と市道下から旧サフォーク小屋下の草原までの班に分かれて実施しました。



駐車場からの班 駆除の様子 (写真上下)



サフォーク小屋下の班 駆除の様子 (写真上下)



土田信大名誉教授によるハルザキヤマガラシのモニタリング調査箇所の選定作業
今回の作業の効果について、モニタリング調査を実施し、駆除の効果を検証するとともにより効果的な駆除方法を検討します

駆除予定箇所は広大な面積でしたが、土地所有者の小和田牧野農業協同組合、霧ヶ峰パークボランティア連絡会等の団体、諏訪地域シニア大学卒業生など多くのボランティアのご協力により概ね駆除することができました。(ロゼット型の花のついていない個体については判別が難しく、取り残しがあったよ

うです。) ご参加いただきました皆様ありがとうございました。

今回は「霧ヶ峰高原を美しくする会」と同日実施であったため、計量が全体の数字になってしまいましたが、計 86 名参加で 510kg のハルザキヤマガラスを駆除することができました。

来年度は、今年度の経験を活かし、より効果的な駆除を計画したいと思いますので、来年度もよろしくお願いいたします。



駆除したハルザキヤマガラスを諏訪市運搬車に積み込みます



諏訪市清掃センターで計量の上、焼却処分します

【個別作業 強清水湿地・踊場湿原入口オオハンゴンソウ駆除】

強清水湿地は、諏訪市街地から主要地方道 諏訪白樺湖小諸線を上ってくると霧ヶ峰の玄関口になります。近年急速にオオハンゴンソウが増殖した場所で、開花時期には一面オオハンゴンソウの黄色い花で埋め尽くされます。また、天然記念物踊場湿原の入口にも近年オオハンゴンソウの侵入が見られ、湿原の中には毎年諏訪市教育委員会で駆除作業を行っています。

この地区以外にもオオハンゴンソウの繁茂が見られる地区がありますが、計画では当面この 2 箇所について駆除作業を実施することになりました。

強清水湿地については 3 回、踊場湿原の入口については 1 回の駆除作業を実施しました。



オオハンゴンソウはキク科オオハンゴンソウ属の多年草

外来生物法で特定外来生物に指定されており、栽培や運搬などが規制されます

とても繁殖力が強く、種子と根から繁殖します

写真は開花時期（8 月）の状況です

1 回目

駆除実施日時 平成 26 年 6 月 20 日(金) 午前 9 時から 11 時 30 分

実施場所 強清水湿地周辺

参加人数 40 名

午前 9 時現地で開会式を行いました。開会式では、信州大学農学部 大窪教授からオオハンゴンソウの特徴や駆除に関する説明を受け、外来生物法で特定外来生物に指定されていて、栽培や運搬などが規制されていることや種と地下茎両方で繁殖するため、根から掘り取って駆除する必要があることなどについて学習しました。また、作業は当協議会の構成団体で外来生物法の防除計画の確認を受けている長野県の計画に基づき実施しました。

駆除地はあらかじめ 5 m × 5 m にポールとひもで区画し、1 区画 4 人で 9 区画約 225 m²の掘り取り作業

を行いました。



駆除作業の様子



駆除後の様子

霧ヶ峰のこの時期のオオハンゴンソウは草丈約20~30cmですが、地上部が成長していない分根に養分が蓄えられていて、根からの掘り取りはかなり重労働です。移植ゴテなどは歯が立たず曲がってしまったものもありました。

25 m²の中に4人が入り、在来植物を損傷しないよう気を付けてオオハンゴンソウを残さず駆除するのはたいへんな作業でしたが、参加者のご努力で約750kgの駆除ができました。駆除したオオハンゴンソウは袋に入れて密閉し、諏訪市清掃センターで焼却処分をしました。

ご参加いただいた構成団体、ボランティアの皆様ありがとうございました。

2回目

駆除実施日時 平成26年7月31日(木) 午前9時から11時30分

実施場所 強清水湿地及び踊場湿原入口周辺

参加人数 62名

午前9時強清水湿地で開会式を行いました。開会式では、信州大学農学部 大窪教授からオオハンゴンソウの特徴や駆除に関する説明を受け、駆除方法などの基礎知識を得ました。

作業は、防除確認を受けている長野県の計画に基づき行い、強清水湿地と踊場湿原のグループに分かれて駆除を行いました。



信州大学 大窪教授の説明の様子



強清水湿地駆除作業の様子

強清水湿地では第1回と同様に、区画を第1回の駆除箇所の一部重複するようにして続き地に設けました。第2回は参加人員が増えたので、11区画約275 m²の掘り取り作業を行いました。

また、前回移植ゴテ、草抜き等が変形してしまった反省を活かし、大型のスコップ等を多めに用意したため、ある程度効率的な駆除ができました。それでも梅雨明けの晴天は蒸し暑く、かなりの重労働

働でした。参加者の皆様には十分な水分補給をお願いして休憩を取りながら作業をしていただきました。



作業の様子



駆除したオオハンゴンソウの積込の様子

駆除したオオハンゴンソウは、密閉して運搬車に積込み、諏訪市清掃センターで焼却処分をしました。第2回目の駆除重量は、460kgでした。ご参加いただいた構成団体、ボランティアの皆様ありがとうございました。

霧ヶ峰には3つの湿原があり、この3湿原を併せて「霧ヶ峰湿原植物群落」として天然記念物に指定されています。近年3湿原の一つ踊場湿原にオオハンゴンソウが侵入しており、湿原内の希少な植物等への影響が懸念されています。湿原の中につきましては、天然記念物を管理している諏訪市により毎年駆除が行われていますが、周辺の草原にも侵入が見られるため、繁殖する前に駆除を行い、天然記念物及びその周辺への拡大を防ごうとするものです。

この日は、当協議会の駆除に併せて諏訪市の教育委員会で湿原内のオオハンゴンソウ駆除が行われましたので、若干湿原内もお手伝いしながらの駆除になりました。



踊場湿原の周囲を囲む遊歩道沿いにオオハンゴンソウが侵入しており、駆除を行います
 在来植物もかなり草丈があり、掻き分けながら探しては掘り取る作業です
 中央遊歩道の左、木杭から中が天然記念物内になります

湿原の中はさらに植物が密集して生育しており、少しかがむと人の姿が隠れてしまいそうです

この中のオオハンゴンソウを探しながら剪定ばさみ等で刈り取ります

現段階では、天然記念物の現状変更許可が得られないので、掘り取ることができません



探しながらの駆除は非効率な作業ですので、12人で約2時間かけて約50kgの駆除でした。駆除したオオハンゴンソウは諏訪市清掃センターで焼却処分をしました。ご参加いただいた上桑原牧野農業協同組合、小和田牧野農業協同組合の皆様ありがとうございました。

3回目

駆除実施日時 平成26年8月19日(火) 午前9時から11時40分
 実施場所 強清水湿地
 参加人数 41名

オオハンゴンソウの駆除も3回目となり、複数回参加いただいている方もおりました。

午前9時強清水湿地で開会式を行い、開会式で信州大学農学部 大窪教授からオオハンゴンソウの特徴や駆除に関する説明を受け、駆除方法などの基礎知識を得ました。

作業は、防除確認を受けている長野県の計画に基づき行い、第1回、第2回と同様に区画分けした25㎡に4人が入って掘り取る班と種子生産を始めたオオハンゴンソウを刈払い機で刈り取る班に分かれて駆除を行いました。



オオハンゴンソウは1m以上に生育し、開花している状況で、中には種子を作り始めている個体もあります



掘り取り班は8区画約 200 m²を 1 区画 4人で掘り取って駆除を行いました。第1回、第2回と併せると約 700 m²の掘り取り駆除を行ったこととなります。

第3回の掘り取りは地上部が生育している分地下茎は小さくなっており、駆除しやすくなっていましたが、地上部が大きいためゴミ袋が瞬く間に一杯になりました。



駆除の様子



掘り取り駆除の道具



刈取班の刈取りの様子



刈り取ったオオハンゴンソウの回収の様子

刈り取り班6名は、掘り取り班から離れたオオハンゴンソウが繁茂している群落の外側から内側に向かって地上部を刈り取りました。本当は根から駆除したいところですが、あまりにも範囲が広いため地区全体の根からの駆除は困難でしたので、種子生産前に刈り取って増殖させないための応急処置です。

刈り取る方も大変ですが、刈り取ったオオハンゴンソウを回収する方も一苦労です。

第3回目は41人の参加で約2時間作業を行い、860kgのオオハンゴンソウを駆除することができました。ご参加いただいた構成団体、ボランティアの皆様ありがとうございました。



このモデル地区の駆除は3回行い、延べ143人に参加していただき、2tを超えるオオハンゴンソウを駆除しましたが、分布範囲が広く、駆除を進めるには人数を増やすか、回数を増やす必要があると思われました。次年度以降の方針を検討する必要があると思います。

暑い中、重労働をしていただいた参加者の皆様本当にありがとうございました。

繰り返し駆除をする必要があると思いますので、来年度もよろしくお願いいたします。

【個別作業 強清水園地ヘラバヒメジョオン・メマツヨイグサ駆除】

ビーナスラインが有料だった頃、霧ヶ峰インターチェンジがあった場所を現在も通称「インターチェンジ」と呼んでいます。北は八島ヶ原湿原、南は踊場湿原、東は車山、西は諏訪市街地へ向かう十字路で、その北東の角地に強清水園地があります。霧ヶ峰の中心的な場所で商業施設や霧ヶ峰自然保護センターの近くにあり、人や車が集まる地区になります。

駆除実施日時 平成26年7月10日(木) 午前9時から11時

実施場所 強清水園地

参加人数 27名

梅雨時であり天気が良くなく、降ったりやんだりの状況でしたので、霧ヶ峰自然保護センターで開会式を行いました。開会式では、信州大学大学院生からヘラバヒメジョオン・メマツヨイグサの見分け方や駆除時の注意事項などの説明を受けました。



ヘラバヒメジョオン（キク科ムカシヨモギ属の外来種）ヒメジョオンと似ているが、葉がヘラのような形をしている

メマツヨイグサ（アカバナ科マツヨイグサ属の要注外来生物）

開花した状態でないと駆除初心者には見分けが付きにくいですが、花は夜開花するため目にするのが少ない



遊歩道沿いに繁茂している



園地には植生保護のための電気柵が設置されている

駆除範囲は、園地入口から遊歩道に沿って幅 15m 延長 100m を設定し、10m ごとにポールを立て区画し、1 区画に 2~3 人が入って駆除する予定でしたが、幅 15m の中間付近に電気柵が設置されていて区画が分断されていたため、区画ごとの駆除が難しく、電気柵を挟んで移動しながらの駆除となりました。駆除方法は剪定ばさみで地際から切り取る方法でしたが、ロゼット状（幼个体）のヘラバヒメジョオンや開花状態ではないメマツヨイグサは判別が難しく、駆除地で指導を受けながらの作業になりました。

また、降雨と濃霧で作業がしづらく、効率的な作業はできませんでした。途中、雨が強くなってきたので作業は 11 時頃終了としましたが、下桑原牧野農業協同組合を中心に霧ヶ峰パークボランティア、一般のボランティアなど 27 名で約 30kg のヘラバヒメジョオン・メマツヨイグサを駆除することができました。

ご参加いただいた皆様、雨の中本当にありがとうございました。来年度もよろしくお願ひいたします。駆除した外来植物は、諏訪市清掃センターで焼却処分をしました。

この地区においても信州大学農学部 大窪教授が駆除範囲に隣接した箇所にモニタリング調査枠を設置し、効果の検証を行いました。調査結果に基づきより効果的な駆除方法等を協議会で検討します。

【個別作業 車山高原ヘラバヒメジョオン・フランスギク駆除】

車山高原の 2 回目の外来種駆除は、対象種を変えてヘラバヒメジョオンとフランスギクの駆除を計画しました。ヘラバヒメジョオンの紹介は前述のとおりです。フランスギクはキク科フランスギク属の外来種でマーガレットとよく似ています。車山高原は個別作業①-1 で記載したとおり、観光客の利用が多い場所で、観光施設周辺を中心に外来植物が繁茂しています。中でもヘラバヒメジョオンは観光施設周辺から山頂に向かって増殖しています。また、フランスギクは白樺湖から車山にかけての通称ビーナスラインの道路沿いに特に繁茂しており、路側帯の白線の外側にフランスギクが並んで咲いている様は白線がもう 1 本あるように見えます。

当初は、観光施設周辺のヘラバヒメジョオン・フランスギク駆除班とビーナスライン沿いのフランスギク駆除班に分かれて作業を行う予定でしたが、直前に道路管理者による除草作業があり、ビーナスライン沿いは作業ができなくなってしまいました。やむなく観光施設周辺でヘラバヒメジョオンとフランスギクを駆除することになりました。

駆除実施日時 平成 26 年 7 月 15 日(火) 午前 9 時から 11 時 30 分

実施場所 車山高原

参加人数 40 名



開会式の様子



駆除範囲は広大です

車山の作業は、今回も快晴です。気温も高く参加者が熱中症にならないように十分水分補給をして、休憩しながら作業をしていただくようお願いしました。



午前9時開会式を行いました。開会式の中で、車山ビジターセンター職員にヘラバヒメジョオンとフランスギクの見分け方や駆除方法について説明を受けました。

また、現地で実物を見ながら駆除方法等について説明していただきました。

駆除方法は、剪定ばさみを使って、なるべく地際から切り取るようにし、土壌のかく乱を防ぐため抜き取りを極力行わないようにしました。

作業は、車山高原観光協会、茅野市北大塩財産区、霧ヶ峰パークボランティア連絡会の他多くのボランティアの皆様に参加いただき実施することができました。おかげさまで約 100kg の外来種駆除ができました。本当にありがとうございました。

来年度は、今年度の経験を活かし、より効率的な計画をしたいと思っておりますので、来年度もよろしくお願いたします。

(2) 優占種刈取り（伐採）作業

【個別作業 車山肩東ニッコウザサ刈取り】

車山肩はビーナスラインを霧ヶ峰インターチェンジから車山に向うと丁度中間に位置する地区で、レストランやヒュッテなどの施設があり、ニッコウキスゲの群生地としても知られています。

今回、ニッコウザサを刈る地区もかつてはニッコウキスゲの群生地でしたが、ササが優占することでニッコウキスゲなどの草原性の植物が姿を消した地区です。ササを刈取り地区外へ搬出することでササの勢力を弱め、多様な植物が生育する草原に再生することを目的に実験的に行うものです。

刈取実施日時 平成 26 年 9 月 10 日(水) 午前 9 時から 11 時 30 分

実施場所 車山肩東

参加人数 42 名



遠景からは草原ですが、ほとんどニッコウザサで覆われています

午前9時、車山肩駐車場で開会式を開催しました。開会式の中で協議会座長 土田信州大学名誉教授からササ刈の効果や注意点などについて説明を受け、作業を開始しました。作業は刈取り班と搬出班に分かれ、刈取り班が刈り取ったササを搬出班が集めて袋に入れ、ビーナスライン反対側の人工林まで運搬し、堆積させる方法で行いました。



作業の様子



刈取範囲は、幅 50m、延長 200m の 1 ヘクタールを実施しました。当初想定していたよりニッコウザサの草丈がありボリュームがあったため、搬出はかなり重労働になりました。刈取りはベテランの腕もあり概ね予定面積を完了しましたが、搬出は予定時間内に完了するのが困難で一部残ってしまい、後日残りを搬出しました。

また、モニタリング調査箇所は土田名誉教授の指示のもと刈取り搬出作業を実施しました。

予定した人員以上に参加していただきましたが、予定時間内に完了することができませんでしたので、来年度は

人員を増やすか、時間を延長するなどの工夫が必要になると思います。作業に参加いただいた霧ヶ峰高原牧野農業協同組合、霧ヶ峰パークボランティア連絡会他多くのボランティアの皆様は、重労働でしたが最後まで頑張ってください、本当にありがとうございました。来年度も是非ご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

【個別作業 車山肩西レンゲツツジ伐採】

霧ヶ峰自然保全再生実施計画では、草原景観維持と観光の面からレンゲツツジを保全する群落と伐採する群落に分け、草原景観を維持する範囲については、反復して計画的に伐採することとしています。

当該地区は、草原景観を維持する範囲としている地区でビーナスライン車山肩駐車場から西へ徒歩で15分くらいの位置で、ビーナスラインの通称S字カーブ付近の遊歩道北側になります。

伐採実施日時 平成 26 年 10 月 18 日(土) 午前 9 時から 11 時 15 分

実施場所 車山肩西

参加人数 31 名

午前 9 時までには車山肩駐車場に集合していただき、徒歩で現地に向かいました。付近に駐車場はなく、15 分程度遊歩道を歩くと伐採地区に到着します。9 時 15 分ころ現地で開会式を行い、チェーンソー等に十分注意して作業を行うよう事務局からお願いしました。

当初、伐採したレンゲツツジは細かく切断し、草原内に放置する予定でしたが、土地所有者である霧ヶ峰湖東牧野農業協同組合からチップパーによるウッドチップ化と遊歩道への敷設の提案があり、有識者に確認したところ、伐採したレンゲツツジは地区外へ出した方が効果的であるとの意見をいただいたため、基本的にはチップ化し、量的に難しい場合に切断することにしました。



作業の様子



チップパーによるチップ化

作業は、伐採班と搬出班に分かれて、チェーンソーから半径 5m 以内に人や他の機械が入らないよう注意しながら実施していただきました。伐採範囲はレンゲツツジの群落を囲む概ね 1 ヘクタールでレンゲツツジのみを伐採し、ポールで囲ったモニタリング調査箇所はポールに気をつけながら作業を行いました。伐採したレンゲツツジは袋に入れてチップパーまで運搬しウッドチップ化しました。

また、チップパーの処理状況により量的に困難なレンゲツツジは、なた・ノコギリなどで切断してその場に放置し朽ちるのを待つ方法を取りました。作製したウッドチップは公園利用者が歩きやすくなるよう伐採範囲に隣接した遊歩道に敷設しました。



伐採木運搬の様子



遊歩道ウッドチップ敷設の様子

チェーンソー持参の方がベテランであったためか、開始から 2 時間ほどで予定範囲の作業は完了し、遊歩道にも 50m ほどウッドチップを敷くことができました。

爽やかな秋晴れの日で、気持ちの良い作業日和になりました。ご参加いただいた霧ヶ峰湖東牧野農業協同組合他多くのボランティアの皆様、ありがとうございました。

【個別作業 インターチェンジ草地ススキ刈取り】

刈取り地区付近は、かつてビーナスラインが有料道路であったときにインターチェンジが置かれていた場所で、正式な道路名で申しますと主要地方道諏訪白樺湖小諸線と一般県道霧ヶ峰東餅屋線の交点の位置となり、現在も一般にインターチェンジと呼ばれています。ドライブインなどの商業施設や県霧ヶ峰自然保護センターなどがあり、霧ヶ峰の中心的な位置になります。

今回ススキを刈取る地区は、インターチェンジの北東の一角で、ビーナスライン沿いに幅 50m 延長 200m を計画しました。優占種であるススキを刈取り、地区外へ搬出することでススキの勢力を弱め、多様な植物が生育する草原に再生することを目的に実験的に行うものです。また、搬出したススキは堆肥化施設に搬入し、堆肥にして社会へ還元しようとするものです。

刈取実施日時 平成 26 年 10 月 21 日 (火) 午前 9 時から 11 時 30 分

実施場所 インターチェンジ草地

参加人数 46 名



刈取の様子



搬出の様子



搬出の様子



モニタリング箇所の指示を出す土田名誉教授

当日は、あいにくの天気になりました。雨はだいぶ小降りになっていましたが、霧ヶ峰を象徴するような濃い霧が立ち込めていました。当初はビーナスライン反対側のパーキングに収集運搬車を停車させて運び込むことを考えていましたが、道路横断は視界が悪く危険なため急遽道路手前に仮置きすることにいたしました。

午前 9 時に霧ヶ峰自然保護センターで開会式を行いました。開会式では当協議会座長の土田信州大学

名誉教授からススキ刈取りの効果や注意事項等について説明を受け、その後刈取り班と搬出班に分かれて作業を開始しました。降雨や風の影響で倒れかかったススキ等もあり、刈取りが思うようになかったり、雨で水分を含んだススキを運搬するのはかなりの重労働であったり、参加者の皆様にはご苦労をおかけしました。刈取り班は皆様ベテランでしたので、若干予定範囲よりは狭くなりましたが、概ね1ヘクタールを刈取ることができました。運搬についても刈取り範囲すべてのススキを1箇所を集積することができました。

土田名誉教授は、モニタリング調査範囲を設定し、刈取り等の指示をしました。ススキ刈取りの効果等の検証を行います。協議会では、調査の結果得られた知見や作業で得たノウハウに基づき、より効果的な手法等を検討してまいります。

集積したススキは後日収集運搬車に積み込み、堆肥化施設に運び込みました。搬入日から2~3箇月後には堆肥となって社会に還元されます。雨で重くなったススキも搬入時はだいぶ乾いておりましたが、重量は4トンを超える量でした。刈取り当日はもっと重かったと思われます。下桑原牧野農業協同組合、各団体及び一般のボランティアの皆様、降雨の中本当にありがとうございました。

4 平成26年度個別作業のまとめと今後の展開

(1) 平成26年度個別作業一覧表

種別	個別作業モデル 地区	作業内容	参加人員(人)	作業実績	備考
外来種 駆除	車山高原	セイヨウタンポポ駆除	28	50kg	
		ヘラバヒメジョオン・フランスギク駆除	40	100kg	
	池のくるみ	ハルザキヤマガラシ駆除	42	510kg	同一日実施の他団体駆除分含む
	強清水湿地及び踊場湿原入口	オオハンゴンソウ駆除	143	2,070kg	抜根駆除面積約700㎡
	強清水園地	ヘラバヒメジョオン・メマツヨイグサ駆除	27	30kg	
小計	4地区		280	2,760kg	

優 占 種 刈 取 り	車山肩東	ニッコウザサ群落刈取り・搬出	4 2	約 1 ha	
	車山肩西	レンゲツツジ群落伐採	3 1	約 1 ha	
	インターチェンジ草地	ススキ群落刈取り・搬出	4 6	約 1 ha	搬出重量 4, 170 kg
小計	3 地区		1 1 9	約 3 ha	
合計	7 地区		3 9 9		

平成26年度は、10回の作業に399人が参加し、自然保全再生作業を行いました。全体で2トンを超える外来種の駆除及び約3ヘクタールの優占種の刈取りを実施し、効果を検証するためのモニタリング調査を行いました。

(2) 今後の展開

平成26年度に実施した7箇所のモデル地区について、当面5年間は作業とモニタリング調査を継続し、効果を検証してまいります。その中で得た知見やノウハウを随時取り込むことにより、より効果的な手法で作業を行ってまいります。5年間の作業が終了する平成31年度を実施計画の見直し時期とし、実施計画の見直しを行うほか、第2次の5年間について、本格実施のための工程表を作成し、工程表に沿って個別作業を拡充したいと考えています。

また、作業計画等と並行して、取組みを継続させるための仕組みの構築や資金確保の方策について、具体的に検討してまいります。